



## そろばんを通して学んだこと

防衛医科大学校看護学科4年 蒲生 泉海

こんにちは。蒲生泉海と申します。防衛医科大学校看護学科に通っており、今年で4年生となりました。今回このような貴重な機会をいただきましたので、そろばんが私のこれまでの人生にどのように影響してきたのかについて、少しお話をさせていただければと思います。

私がそろばんを習っていたのは、小学校1年生から6年生の約6年間で、近所のお友達が習っている姿を見て自分もやってみたいと思ったのがきっかけで始めました。習いたての頃は、初めて触れる少し変わった箱型の道具に戸惑いつつも、少しずつ問題が解けるようになっていくことがうれしかったのを覚えています。級が上がるにつれて難しい問題が増えていき、できない自分に腹が立って心が折れそうになることもありました。それでもそろばんをはじき続け、6年間最後の検定で目標だった珠算段位認定参段を達成できました。この経験は、今でも自分の自信につながっています。

約6年間でそろばんから得たものは数えきれないほどありますが、その中でも、私を今でもたくさん助けてくれている「計算力」と「忍耐力」についてお話ししようと思います。

まず「計算力」について、これは言うまでもないですが、そろばんを習得したことで計算スピードや計算における正確性が磨かれたことを確信しています。この2つがその後の中学校・高校における数学や受験勉強等に大きく影響しており、特に理系の科目に対して得意意識を持てるようになりました。そろばんでは大きな桁の計算も行うこともあり、数字に対する拒絶がないので、それだけでも苦手意識を無くすことができたように感じます。また、そろばんで培った「計算力」、特に暗算の力は、大学生になった今でも、看護の国試

問題といった勉強で大いに役立っています。

そして、「忍耐力」についてです。そろばんは常にミスとの闘いであり、どれだけ正確に答えを求められるかが問われます。実際の私の話をすると、そろばんを始めたころは楽しくて仕方なかったのですが、何度も難しい問題に直面し、検定に合格できなかった時には「もうやりたくない」という感情が湧いてくることもありました。それでも、諦めることなく数をこなしていくことで、最初は上手くできなくても、少しずつ問題が解けるようになっていき、コツコツと努力を重ねれば必ず上達する、ということ学びました。これを何度も経験することで、自然と「忍耐力」が身に付いたのだと思います。すごくしんどかった大学受験もこの「忍耐力」で乗り切って無事志望大学に合格し、今思い返すとそろばんを習っていて良かったなと心の底から思います。

そんな私は現在、防衛医科大学校看護学科にて、最高学年となりました。今の私の夢は、無事看護師と保健師の国家試験に合格し、その後「認知症看護認定看護師になって、増え続ける認知症患者への、本人を尊重したケアの向上に貢献すること」です。日本は高齢化が急速に進む世界の長寿国で、認知症患者が非常に増えてきています。認知症とともに生きていくためには、認知症の人が尊厳を持って自分らしく過ごせる社会づくりを早急に構築する必要があります。私は、それを支援する人たちの中の一人になりたいのです。その道りは決して楽なものではないですが、この夢を叶えるための過程で、そろばんを通して得た沢山の経験が私に大きな力を与えてくれると思います。必ずや私は、今後の人生でも、そろばんに出会ったことに何度も感謝することになるでしょう。